

2018年8月期 第1四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2018年8月期第1四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第1四半期決算概要	P3	～	P18
II. 2018年8月期 通期業績予想	P19	～	P21
III. ご参考資料	P22	～	P24

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - ジーユー事業： 国内・海外で展開するジーユー事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

計画を上回る、増収増益

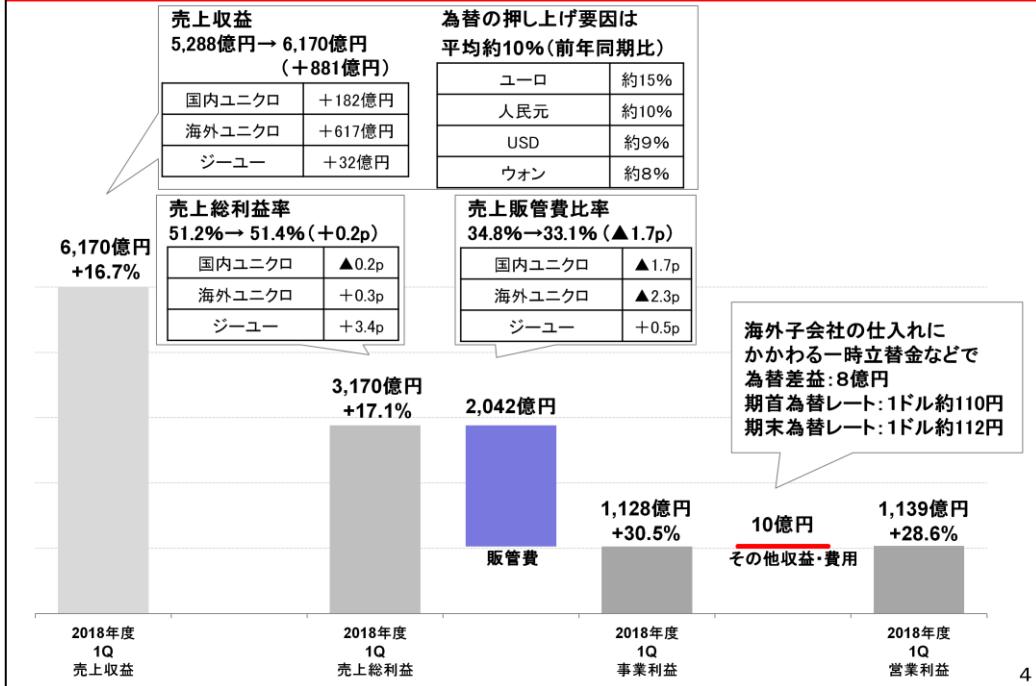
単位：億円

	2017年8月期 第1四半期実績	2018年8月期	
		第1四半期実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	5,288 100.0%	6,170 100.0%	+16.7%
売上総利益 (売上比)	2,706 51.2%	3,170 51.4%	+17.1% +0.2p
販管費 (売上比)	1,841 34.8%	2,042 33.1%	+10.9% ▲1.7p
事業利益 (売上比)	864 16.4%	1,128 18.3%	+30.5% +1.9p
その他収益・費用 (売上比)	20 0.4%	10 0.2%	▲49.3% ▲0.2p
営業利益 (売上比)	885 16.8%	1,139 18.5%	+28.6% +1.7p
金融収益・費用 (売上比)	156 3.0%	39 0.6%	▲74.8% ▲2.4p
税引前四半期利益 (売上比)	1,042 19.7%	1,178 19.1%	+13.1% ▲0.6p
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (売上比)	696 13.2%	785 12.7%	+12.7% ▲0.5p

3

2018年8月期 第1四半期の連結業績ですが、
 売上収益は6,170億円、前年同期比16.7%増、
 売上収益から売上原価、販管費を控除して算出した、
 事業そのものの収益を示す事業利益は1,128億円、同30.5%増、
 営業利益は1,139億円、同28.6%増、
 税引前四半期利益は1,178億円、同13.1%増、
 親会社の所有者に帰属する四半期利益は785億円、同12.7%増と、
 計画を上回る増収増益となりました。

【連結】第1四半期 営業利益



まず、連結の損益計算書のポイントについて、ご説明いたします。
ジーユー事業が連結業績に与える影響が大きくなったことから、
今期より、ジーユー事業のセグメント開示を始めております。

連結の売上収益は6,170億円、前年同期比881億円の増収となりました。
すべてのセグメントで増収となっております。
特に海外ユニクロ事業が617億円の大幅な増収と、大きく寄与しております。

売上総利益率は51.4%と、前年同期比で0.2ポイント上昇いたしました。
これは、ジーユー事業、海外ユニクロ事業で粗利益率が改善したためです。

売上販管費比率は33.1%と、同1.7ポイント低下いたしました。
これは、海外ユニクロ事業、国内ユニクロ事業で売上販管費比率が低下したためです。

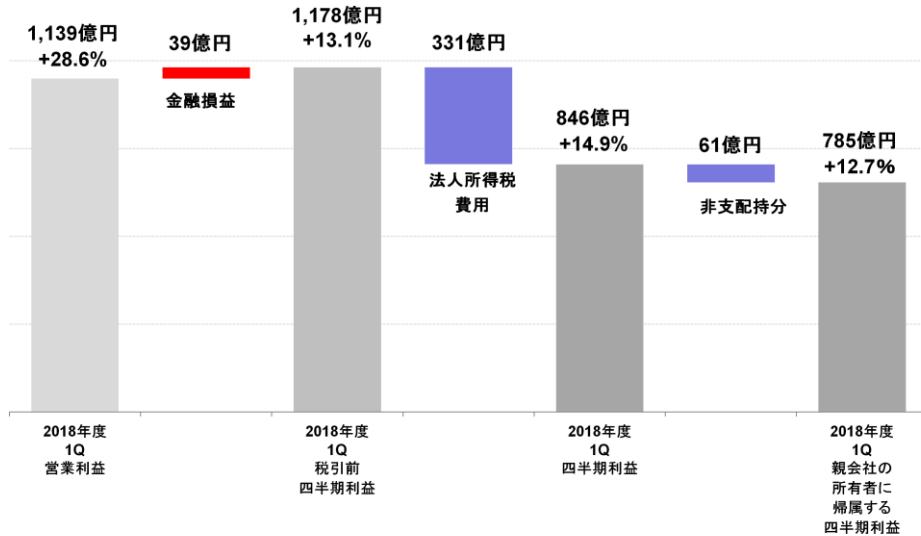
事業利益は1,128億円と、同30.5%の増益となりました。

その他収益・費用の合計は10億円のプラスとなっております。
これは主に、11月末の為替レートが、期首に比べ円安となったことにより、
海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などに為替差益が8億円発生した
ことによります。

これらの結果、営業利益は1,139億円、同28.6%の増益となりました。

【連結】第1四半期 親会社の所有者に 帰属する四半期利益

外貨建資産などの換算額が28億円増加
期首為替レート: 1ドル約110円
期末為替レート: 1ドル約112円



次に、金融損益ですが、期首に比べ、11月末の為替が円安になったことから、外貨建資産などの換算額が増加し、金融損益はネットで39億円のプラスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は1,178億円と同13.1%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は785億円、同12.7%増となりました。

【セグメント別】第1四半期実績

		2017年8月期	2018年8月期		単位: 億円
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	
国内ユニクロ事業	売上収益	2,388	2,570	+7.6%	
	事業利益 (売上比)	461 19.3%	534 20.8%	+15.8%	+1.5p
	その他収益・費用	▲5	6	-	-
	営業利益 (売上比)	456 19.1%	541 21.1%	+18.6%	+2.0p
海外ユニクロ事業	売上収益	1,965	2,582	+31.4%	
	事業利益 (売上比)	306 15.6%	467 18.1%	+52.7%	+2.5p
	その他収益・費用	▲4	▲0	-	-
	営業利益 (売上比)	301 15.3%	466 18.1%	+54.7%	+2.8p
ジーユー事業	売上収益	575	608	+5.6%	
	事業利益 (売上比)	68 11.8%	89 14.8%	+32.0%	+3.0p
	その他収益・費用	0	0	▲2.9%	-
	営業利益 (売上比)	68 11.9%	90 14.8%	+31.8%	+2.9p
グローバルブランド事業	売上収益	352	400	+13.8%	
	事業利益 (売上比)	28 8.2%	31 7.9%	+9.5%	▲0.3p
	その他収益・費用	▲1	▲1	-	-
	営業利益 (売上比)	27 7.8%	30 7.6%	+10.4%	▲0.2p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6ページのスライドは、セグメント別の業績です。

詳細については、次のスライドからご説明いたします。

1Q (9~11月) 売上好調、計画を大幅に上回る増益

	2017年8月期 実績	2018年8月期 実績	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
売上収益 (売上比)	2,388 100.0%	2,570 100.0%	+7.6%
売上総利益 (売上比)	1,220 51.1%	1,307 50.9%	+7.1% ▲0.2p
販管費 (売上比)	759 31.8%	772 30.1%	+1.8% ▲1.7p
事業利益 (売上比)	461 19.3%	534 20.8%	+15.8% +1.5p
その他収益・費用 (売上比)	▲5 -	6 0.2%	- -
営業利益 (売上比)	456 19.1%	541 21.1%	+18.6% +2.0p

単位：億円

注：国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

7

まず、国内ユニクロ事業の第1四半期の業績ですが、売上収益は2,570億円、前年同期比7.6%増、営業利益は541億円、同18.6%増と、計画を大幅に上回る増収増益を達成いたしました。

【国内ユニクロ事業】売上収益

1Q 売上収益 2,570億円（前年同期比+7.6%）
（9～11月） 既存店売上高は、同8.4%増収。計画を大きく上回る

- ・ヒートテック、ダウン、スウェット、メリノセーターなどのユニクロが強みとする秋冬商品の需要が強く、これらの商品の在庫をしっかりとった商売ができた
- ・例年に比べて気温が低く推移したことも追い風
- ・11月は「ユニクロ感謝祭」の販売も計画を大きく上回り、単月での売上は過去最高を更新
- ・客数、客単価は、3ヶ月連続で増加
 - ✓ 客数：キャンペーン商品が集客に寄与。新コラボのJW ANDERSONや新カテゴリーのマタニティ商品などの話題性のある商品も集客に寄与
 - ✓ 客単価：比較的単価の高いアウターやボトムスの販売が好調
- ・Eコマースの売上は同25.6%増、売上構成比 6.0%→7.0%
 - ✓ 11月のEC販売の伸び率は20%弱にとどまる。これは感謝祭期間中にオーダー数が極めて多く、一部の発送が12月にずれこんだ影響。受注ベースでは40%超の伸び率

既存店 前年同期比	2018年8月期				
	9月	10月	11月	1Q累計	12月
売上高	+6.3%	+8.9%	+8.9%	+8.4%	+18.1%
客数	+3.9%	+5.0%	+4.6%	+4.5%	+13.5%
客単価	+2.3%	+3.8%	+4.2%	+3.7%	+4.0%

8

まず、国内ユニクロ事業の売上ですが、既存店売上高は前年同期比で8.4%増収と、計画を大きく上回りました。

売上が好調だった要因は、ヒートテック、ダウン、スウェット、メリノセーターなどのユニクロが強みとする秋冬商品の需要が強く、これらの商品の在庫をしっかりとった商売ができたことによります。

これに加え、例年に比べて気温が低く推移したことも追い風となりました。

なお、11月は「ユニクロ感謝祭」の販売も計画を大きく上回り、単月での売上は過去最高を更新いたしました。

客数、客単価は、3ヶ月連続で増加いたしました。

客数が増加した要因は、キャンペーン商品が集客に寄与したことです。これに加え、新しく始めたコラボレーションラインのJW ANDERSONや新しいカテゴリーのマタニティ商品などの話題性のある商品も集客に寄与いたしました。

客単価が増加した要因は、比較的単価の高いアウターやボトムスの販売が好調だったことによります。

Eコマースの売上は同25.6%の増収で、売上構成比は7.0%へと上昇いたしました。

11月末の感謝祭初日には、予想を大きく上回るEコマースサイトへのアクセス集中により、システムがダウンしたことで、多くのお客様にご迷惑をおかけいたしました。

11月のEコマース販売の伸び率は20%弱にとどまりましたが、これは感謝祭期間中にオーダー数が極めて多かったことから、一部の発送が12月にずれこんだ影響によるもので、受注ベースでは40%を超える伸び率となっております。

なお、12月の既存店売上高は18.1%の増収と好調なトレンドが継続しております。

1Q
(9~11月) 売上総利益率 50.9% (前年同期比 ▲0.2p)

粗利益率は前年同期比で若干低下 ほぼ計画通りの水準

- ・前年同期比で低下した要因は、為替の社内レートの円安傾向が続いていることで、原価率が上昇したため
- ・値引率は前年同期比で改善。これは、「毎日お買い求めやすい価格」戦略による値引率のコントロールを継続したこと、売上好調による在庫処分の値引きロスが減少したことによる

9

次に、売上総利益率ですが、50.9%と前年同期比で0.2ポイント低下いたしました。

これは、ほぼ計画通りの水準となっております。

粗利益率が前年同期比で低下した要因は、為替の社内レートの円安傾向が続いていることで、原価率が上昇したためです。

ただし、値引率は前年同期比で改善いたしました。

これは、「毎日お買い求めやすい価格」戦略による値引率のコントロールを継続したこと、売上好調による在庫処分の値引きロスが減少したことによります。

【国内ユニクロ事業】販管費

1Q (9~11月) 売上販管費比率 30.1% (前年同期比 ▲1.7p)

金額ベースでも計画以上に経費削減 広告宣伝費、物流費の大幅な削減が寄与

- ・広告宣伝費: チラシや店内販促物の効率化
- ・物流費: オペレーションの効率化やパツファ倉庫の削減などにより、店舗関連の物流費は大幅に削減。ただし、Eコマースの拡大で、Eコマース関連の物流費は増加
- ・その他経費: 店舗什器などの消耗品費の削減
- ・人件費: 時給や賞与など従業員の待遇面を改善したことによる人件費増があったものの、生産性の向上が寄与

広告宣伝費	前年同期比	- 0.7 ポイント
物流費	同	- 0.7 ポイント
その他経費	同	- 0.3 ポイント
人件費	同	± 0.0 ポイント
減価償却費	同	± 0.0 ポイント
賃借料	同	± 0.0 ポイント

10

売上販管費比率は30.1%と、前年同期比1.7ポイント改善いたしました。売上が計画を上回ったにもかかわらず、金額ベースでも計画以上に経費を削減することができております。

特に、広告宣伝費、物流費は計画比、前年同期比ともに大幅に改善することができました。

広告宣伝費比率は前年同期比で0.7ポイント改善いたしました。これは、チラシや店内販促物の効率化によるものです。

物流費比率は同0.7ポイント改善いたしました。これは、オペレーションの効率化やパツファ倉庫の削減などにより、店舗関連の物流費が大幅に削減できたことによりです。ただし、Eコマース販売の拡大に伴い、Eコマース関連の物流費は増加しております。

その他経費比率は、同0.3ポイント改善いたしました。これは、店舗什器などの消耗品費が削減できたことによるものです。

人件費比率は、横ばいとなりました。時給や賞与など従業員の待遇面を改善したことによる人件費増がありましたが、生産性の向上により人件費比率は横ばいにとどめることができました。

【海外ユニクロ事業】第1四半期実績

1Q
(9~11月) **計画を上回る、大幅な増収増益**

- ・第1四半期の海外ユニクロ事業の売上収益は、初めて国内ユニクロ事業の売上収益を超えた
- ・粗利益率、経費比率も改善し、収益体質が強化
- ・エリア別では、グレーターチャイナ、韓国、東南アジア・オセアニアが引き続き、大幅な増収増益
- ・赤字が継続していた米国は、この第1四半期では黒字に転じる

		2017年8月期		2018年8月期		単位: 億円
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上収益	1,965	2,582	+31.4%		
	事業利益	306	467	+52.7%		
	(売上比)	15.6%	18.1%	+2.5p		
	その他収益・費用	▲4	▲0	-		
	営業利益	301	466	+54.7%		
	(売上比)	15.3%	18.1%	+2.8p		

11

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上収益は2,582億円、前年同期比31.4%増、営業利益は466億円、同54.7%増と、売上、営業利益ともに計画を上回る、大幅な増収増益を達成いたしました。

海外ユニクロ事業は、着実に事業を拡大しており、この第1四半期の売上収益は、初めて国内ユニクロ事業の売上収益を超えました。

また、粗利益率、経費比率も改善し、収益体質が強化されております。

エリア別では、特にグレーターチャイナ、韓国、東南アジア・オセアニアが引き続き、大幅な増収増益となり、海外ユニクロ事業の業績をけん引しております。

また、赤字が継続していた米国は、この第1四半期では黒字に転じることができました。

**グレーターチャイナ：計画を上回る大幅な増益、
大陸は計画通りの大幅な増益、台湾が計画を上回る
韓国：計画を上回る大幅な増収増益**

【中国大陸】 計画通りの大幅な増益を達成

- ・前年に比べ、寒い秋冬シーズンとなったことから、特に冬物商品の販売が好調
- ・華北・華東・華南といったエリアごとの商品構成を強化し、既存店売上高は計画通り増収
- ・値引きのコントロールで、粗利益率は計画通りほぼ前年並み
- ・経費比率も改善したことから、営業利益は計画通りの大幅な増益を達成
- ・Eコマース販売も好調で、2桁増収が継続

【香港】 営業利益は計画通り、前年並み

- ・観光客の減少の影響などで、既存店売上高は減収。経費削減で営業利益は前年並み

【台湾】 営業利益は、計画を大きく上回り、大幅な増益

- ・在庫調整が一巡、既存店売上高は増収に転じ、粗利益率が大幅改善、経費も削減

【韓国】 計画を上回る、大幅な増収増益を達成

- ・秋冬シーズンは気温が低く、防寒衣料の販売が好調で、既存店売上高は2桁増収
- ・値引きに頼る商売から脱却したことで、粗利益率は大幅に改善、経費比率も改善

12

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

中国大陸、香港、台湾といったグレーターチャイナは、大幅な増収増益となりました。売上収益はほぼ計画通り、営業利益は計画を上回る水準となりました。

まず、中国大陸ですが、前年に比べ、寒い秋冬シーズンとなったことから、特に冬物商品の販売が好調でした。また、華北・華東・華南といったエリアごとに冬物の発売タイミングを変えるなど、エリアごとの商品構成を強化したことで、既存店売上高は計画通り増収となりました。

引き続き、値引きのコントロールを実施したことから、粗利益率は計画通りほぼ前年並みの水準となりました。また、経費比率も改善し、営業利益は計画通りの大幅な増益を達成いたしました。

なお、Eコマース販売も好調で、2桁増収が継続しております。

香港は、観光客の減少の影響などにより、既存店売上高は減収となりました。ただし、経費削減を進めたことで、営業利益は計画通り、前年並みの水準を達成しております。

台湾は、在庫調整が一巡したことで、既存店売上高は増収に転じ、粗利益率も大幅に改善いたしました。経費も物流費を中心に削減できたことから、営業利益は計画を大きく上回り、大幅な増益となりました。

韓国は、計画を上回る大幅な増収増益を達成いたしました。

秋冬シーズンは前年に比べ、気温が低かったことから、ユニクロが強みとしているヒートテックやウルトラライトダウンといった防寒衣料の販売が好調で、既存店売上高は2桁増収となりました。値引きに頼る商売から脱却したことで、粗利益率は大幅に改善しております。また、経費比率も改善いたしました。

東南アジア・オセアニア：計画を上回る、大幅な増収増益
北米：米国は計画を上回り、黒字に転じる
欧州：ほぼ計画通り、営業利益は大幅な増益

【東南アジア・オセアニア地区】 計画を上回る、大幅な増収増益を達成

- ・東南アジアは、引き続き売上が好調、既存店売上高は2桁増収
- ・常夏の気候に合った夏物商品が好調なことに加え、トラベル需要を捉えた冬物商品（ヒートテック、ウルトラライトダウン）も増収に寄与
- ・収益面では、粗利益率、経費比率ともに改善し、営業利益は大幅な増益
- ・特に業績が良かったエリアは、インドネシアとタイ

【北米】 米国は、営業利益は計画を上回り、この第1四半期は黒字に転じる

- ・米国は、ウルトラライトダウン、フリース、ブロックテック、ジーンズなどのコア商品、KAWS×PEANUTSのコラボ商品が好調で、既存店売上高は計画を若干上回り増収
- ・米国のEコマース販売は、在庫の欠品が改善し、好調な販売
- ・売上が好調だったことから、粗利益率、経費比率が大きく改善

【欧州】ほぼ計画通り、営業利益は大幅な増益

- ・既存店売上高は増収。特に業績が好調だったエリアは、フランスとロシア
- ・2017年9月にはスペインに初出店し、大成功を収める

13

東南アジア・オセアニア地区は、計画を上回る、大幅な増収増益を達成いたしました。特に、東南アジアは、引き続き売上が好調で、既存店売上高は2桁増収となっております。常夏の気候に合った夏物商品が好調なことに加え、トラベル需要を捉えた冬物商品の打ち出しにより、ヒートテックやウルトラライトダウンなども増収に寄与いたしました。

収益面では、粗利益率、経費比率ともに改善し、営業利益は大幅な増益となりました。特に業績が良かったエリアは、インドネシアとタイです。

米国は、営業利益が計画を上回り、この第1四半期は黒字に転じることができました。ウルトラライトダウン、フリース、ブロックテック、ジーンズなどのコア商品や、KAWS×PEANUTSのコラボ商品が好調で、既存店売上高は計画を若干上回り増収となりました。

Eコマース販売は、在庫の欠品が改善したこともあり、好調な販売となりました。収益面では、売上が好調だったことから、粗利益率や経費比率も大きく改善し、営業利益は計画を上回り、前年の赤字から黒字に転換いたしました。

欧州は、ほぼ計画通り、営業利益は大幅な増益となりました。既存店売上高は増収となっております。特に業績が好調だったエリアはフランスとロシアです。2017年9月にはスペインに初出店し、大成功を収めております。

【ジーユー事業】第1四半期実績

増収増益

- ・売上収益は計画を下回ったものの、営業利益は計画を上回る
- ・国内ジーユー事業の第1四半期の既存店売上高は、計画を下回り、減収
 - ✓ 9月は、チノボトムスや、グレンチェック柄、フェイクファーといったトレンド商品が順調な販売で増収
 - ✓ 10月以降は、トレンド商品の欠品や、厚手のニットやアウター類などの防寒衣料のアイテム数が少なかったことで、計画を下回り減収
- ・粗利益率が前年同期比で大幅に改善
 - ✓ 前年は売価変更が多かったが、今年は値引き販売をコントロールできた
- ・経費も、広告宣伝費や物流費を中心に削減を進め、金額ベースでは計画比で削減
- ・海外ジーユー事業は、増収増益。上海に1店舗出店し、11月末の店舗数は15店舗

		2017年8月期		2018年8月期		単位:億円
		第1四半期実績	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	
ジーユー事業	売上収益	575	608		+5.6%	
	事業利益	68	89		+32.0%	
	(売上比)	11.8%	14.8%		+3.0p	
	その他収益・費用	0	0		▲2.9%	
	営業利益	68	90		+31.8%	
	(売上比)	11.9%	14.8%		+2.9p	

14

次に、ジーユー事業ですが、
 売上収益は608億円、前年同期比5.6%増、営業利益は90億円、同31.8%増と増収増益となりました。
 売上収益は計画を下回ったものの、営業利益は計画を上回っております。

国内ジーユー事業の第1四半期の既存店売上高は、計画を下回り、減収となりました。
 9月の既存店売上高は、チノボトムスや、グレンチェック柄、フェイクファーといったトレンド商品が順調な販売となったことから増収となりましたが、10月以降は、トレンド商品の欠品や、厚手のニットやアウター類などの防寒衣料のアイテム数が少なかったことで、計画を下回り減収となりました。

一方、粗利益率は前年同期比で大幅に改善しております。
 前年は売価変更が多かったことで、粗利益率が大きく落ち込んでいましたが、今年は値引き販売をコントロールできたことによります。
 経費も、広告宣伝費や物流費を中心に削減を進め、金額ベースでは計画比で削減できました。

なお、海外ジーユー事業は、増収増益を達成いたしました。
 上海に1店舗を出店し、11月末の店舗数は15店舗となっております。

ほぼ計画通り、増収増益

- ・セオリー事業：計画を若干上回る増益
 - ✓ セオリーブランドは、計画通り、安定的に成長
 - ✓ PLST(プラステ)ブランドは、売上好調で粗利益率が改善、経費も削減でき、大幅増益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：営業利益は減益、計画を下回る
- ・プリンセス タム・タム事業、J Brand事業：赤字が継続

単位：億円

		2017年8月期	2018年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上収益	352	400	+13.8%
	事業利益	28	31	+9.5%
	(売上比)	8.2%	7.9%	▲0.3p
	その他収益・費用	▲1	▲1	-
	営業利益	27	30	+10.4%
	(売上比)	7.8%	7.6%	▲0.2p

15

次に、グローバルブランド事業ですが、売上収益は400億円、前年同期比13.8%増、営業利益は30億円、同10.4%増と、増収増益となりました。これは、売上収益、営業利益ともにほぼ計画通りの水準です。

セオリー事業は、計画を若干上回る増益となりました。
セオリーブランドは、計画通り、安定的に成長しております。
PLST(プラステ)ブランドは、売上が好調なことから粗利益率が改善、経費も削減することができ、大幅な増益となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業の営業利益は減益となりました。
計画に対しても下回り、業績の不振が続いております。

プリンセス タム・タム事業、J Brand事業については、ほぼ計画通りの業績で、前年並みの赤字が継続しております。

単位：億円

	2016年11月末	2017年8月末	2017年11月末	前年同期比
資産合計	14,109	13,884	16,330	+2,221
流動資産	11,145	10,775	13,141	+1,996
非流動資産	2,963	3,108	3,188	+225
負債合計	6,720	6,264	7,900	+1,179
資本合計	7,388	7,620	8,429	+1,041

16

次に、2017年11月末のバランスシートをご説明いたします。

資産合計は1兆6,330億円と、前年同期末比2,221億円増加、
負債合計は7,900億円と、同1,179億円増加、
資本合計は8,429億円と、同1,041億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

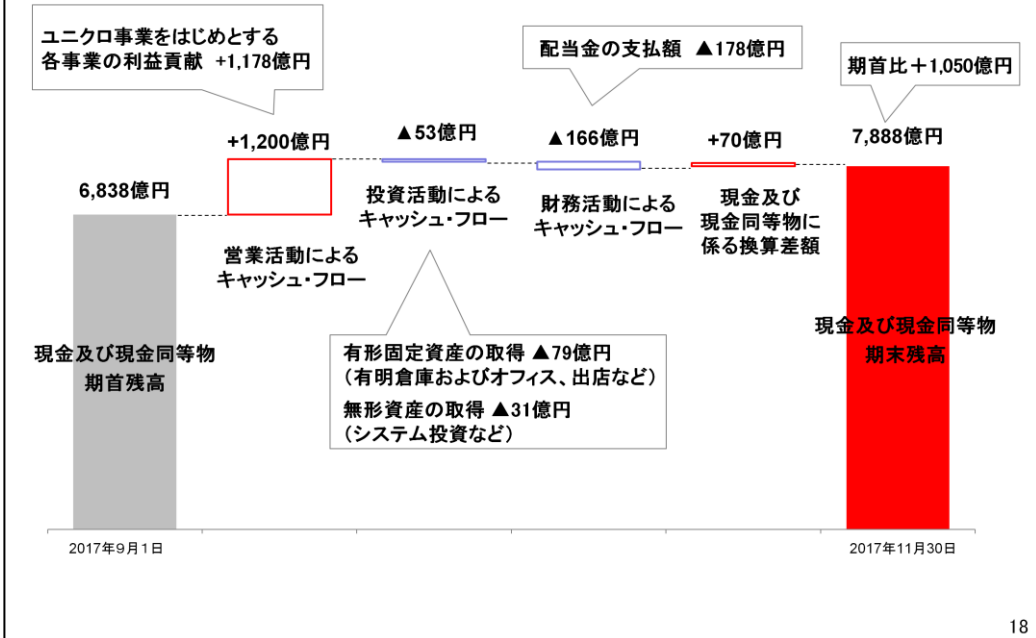
流動資産の増加 +1,996億円(1兆1,145億円 ⇒ 1兆3,141億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +3,232億円(4,656億円 ⇒ 7,888億円)
営業キャッシュ・フローの増加、3ヶ月超の定期預金の取り崩し
- ・その他の短期金融資産の減少: ▲1,832億円(2,070億円 ⇒ 237億円)
3ヶ月超の定期預金の取り崩し
- ・たな卸資産の増加: +275億円(2,736億円 ⇒ 3,011億円)
【国内UQ】+33億円 【海外UQ】+225億円 店舗数の増加+132店舗
【GU】+9億円 【グローバルブランド】+8億円
- ・デリバティブ金融資産の減少: ▲85億円(231億円 ⇒ 146億円)
保有する為替予約の平均レートが、11月末の為替レートより円安
為替予約の平均レートと11月末の為替レートの乖離幅が、前年同期末に比べ縮小
ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はなし

流動資産が前年同期末比1,996億円増加した要因をご説明いたします。
現金及び現金同等物は、前年同期末比3,232億円増加いたしました。
これは、営業キャッシュ・フローの増加および3ヶ月超の定期預金の取り崩し
によるものです。定期預金を取り崩したことで、その他の短期金融資産は
1,832億円減少しております。

たな卸資産は、同275億円増加しております。
これは主に、海外ユニクロ事業の事業拡大に伴って、在庫が拡大したこと
によります。

デリバティブ金融資産は、同85億円減少いたしました。
保有する為替予約の平均レートが、11月末の為替レートより円安となったことで、
デリバティブ金融資産を計上しており、その乖離幅が、前年同期末に比べ
縮小したため、デリバティブ金融資産は前年同期比で減少いたしました。



次に、2018年8月期 第1四半期のキャッシュ・フローですが、
 営業活動によるキャッシュ・フローが1,200億円の収入と、大幅に増加した結果、
 2017年11月末における現金及び現金同等物の期末残高は7,888億円となりました。

業績予想は期初計画通り、変更なし

売上収益 : 2兆500億円 前期比 +10.1%
営業利益 : 2,000億円 前期比 +13.4%
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,200億円 前期比 +0.6%

	2017年8月期	2018年8月期		2018年8月期
	通期実績	通期予想 (1/11)	前期比	第1四半期 実績
売上収益 (売上比)	18,619 100.0%	20,500 100.0%	+10.1%	6,170 100.0%
事業利益 (売上比)	1,840 9.9%	2,050 10.0%	+11.4% +0.1p	1,128 18.3%
その他収益・費用	▲76	▲50	-	10
営業利益 (売上比)	1,764 9.5%	2,000 9.8%	+13.4% +0.3p	1,139 18.5%
金融収益・費用	169	0	-	39
税引前利益 (売上比)	1,933 10.4%	2,000 9.8%	+3.4% ▲0.6p	1,178 19.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,192 6.4%	1,200 5.9%	+0.6% ▲0.5p	785 12.7%

単位：億円

19

スライド19ページからは、2018年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

第1四半期は、国内ユニクロ事業、海外ユニクロ事業の業績が好調だったことから、連結業績は計画を上回るペースで進捗しております。

ただし、現段階では、まだ秋冬シーズンが終了していないことから、業績予想は期初予想から変更しておりません。

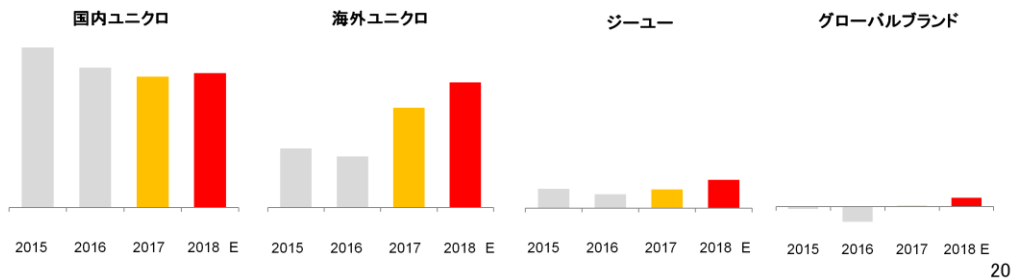
海外ユニクロ事業:通期は大幅な増収増益を予想

- ・1Qは、売上収益、営業利益ともに計画を上回って進捗
- ・グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区は、引き続き大幅な増収増益を見込む
- ・韓国、欧州事業も増収増益、米国とカナダを含む北米事業は赤字が半減する見込み

国内ユニクロ事業:通期は若干の増収増益の予想

- ・1Qは、売上収益、営業利益ともに計画を大幅に上回って進捗。12月も好調な売上トレンド
- ・粗利益率は原価率の上昇により若干の低下を予想
- ・物流費、広告宣伝費の効率化など経費削減を引き続き強化していく予定

セグメント別 営業利益のトレンド(イメージ)



次に、セグメント別の通期の業績予想についてご説明いたします。

海外ユニクロ事業の第1四半期は、売上収益、営業利益ともに計画を上回って進捗いたしました。

通期の業績予想は、期初予想通り、大幅な増収増益を予想しております。

エリア別では、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区が引き続き大幅な増収増益となり、業績をけん引する見込みです。韓国、欧州事業も増収増益を見込んでおります。

米国は、この第1四半期では黒字となり、順調な業績となりましたが、第1四半期は売上規模が大きく、利益が出やすいためであり、通期ではまだ黒字になる水準にはありません。ただし、今期は、米国とカナダを含んだ北米事業は赤字幅が半減することを見込んでおります。

国内ユニクロ事業の第1四半期は、売上収益、営業利益ともに計画を大幅に上回って進捗いたしました。また、先日発表しました12月の既存店売上高は18.1%増と、高い伸び率となり、非常に好調な売上トレンドを継続しております。

通期の業績予想については、まだ秋冬シーズンが終了していないため、期初予想通り、若干の増収増益としております。通期の粗利益率は原価率の上昇により若干の低下を予想しております。一方で、物流費、広告宣伝費の効率化など経費削減を引き続き強化していく予定です。

ジーユー事業:通期は増収増益を予想

- ・1Qは、売上収益は計画を下回るも、営業利益は計画を上回る
- ・通期の業績予想は、値引きのコントロール、経費の削減により、期初予想通り、増収増益
- ・12月の既存店売上高は、若干のプラスに転じる
- ・業績向上に向けての対策
 - ✓あるべき商品構成の見直しを進める。具体的には、どの世代のお客様からも、“欲しい”と思われる、ファッションを取り入れたジーユーらしい商品を作る
 - ✓生産数量の精度を高め、欠品による機会ロスをなくす
 - ✓売れ筋商品の追加生産体制の強化を進める
生産地の見直し、素材備蓄、縫製工場のキャパシティの確保をおこなう

グローバルブランド事業:通期は増収増益を予想

- ・1Qは、ほぼ計画通りの進捗
- ・セオリー事業は大幅な増収増益を予想
- ・コントワー・デ・コトニエ、プリンセス タム・タム、J Brand事業は、赤字幅の縮小をめざす
 - ✓ファーストリテイリングのグローバルヘッドクォーターが具体的な経営課題に入り込み、解決に向けて、各事業のCEOと共に取り組み、立て直しを図る

ジーユー事業の第1四半期は、売上収益は計画を下回りましたが、営業利益は計画を上回ることができました。

通期の業績予想は、引き続き値引きのコントロール、経費の削減をおこなうことで、期初予想通り、増収増益を予想しております。

なお、ジーユーの12月の既存店売上高は、若干のプラスに転じております。

ジーユー事業の業績向上に向けて、さまざまな対策を行っていきます。

まず、あるべき商品構成の見直しを進めていきます。具体的には、どの世代のお客様からも、“欲しい”と思われる、ファッションを取り入れたジーユーらしい商品を作ります。

同時に、生産数量の精度を高め、欠品による機会ロスをなくしていきます。

また、売れ筋商品の追加生産体制の強化を進めていきます。このために、生産地の見直し、素材備蓄、縫製工場のキャパシティの確保をおこなっていきます。

グローバルブランド事業の第1四半期は、ほぼ計画通りの進捗となりました。

通期の業績予想は、期初予想通り、増収増益を予想しております。セオリー事業は大幅な増収増益を予想しております。

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業は赤字幅の縮小をめざしております。ファーストリテイリングのグローバルヘッドクォーターが具体的な経営課題に入り込み、解決に向けて、各事業のCEOと共に取り組み、立て直しを図っていきます。

最後に配当金につきましては、期初予想通り、上期175円、下期175円と、通期で350円を見込んでおります。

以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

<参考資料> 連結対象事業別出退店 実績と予想

【単位：店舗】	17年8月期	2018年8月期(2017/9~2017/11)実績			2018年8月期(2017/9~2018/8)予想				
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,920	66	12	+54	1,974	207	50	+157	2,077
国内ユニクロ事業※	831	8	6	+2	833	30	30	0	831
直営店	790	7	6	+1	791	-	-	-	-
大型店	209	6	1	+5	214	-	-	-	-
標準店等	581	1	5	▲4	577	-	-	-	-
FC	41	1	0	+1	42	-	-	-	-
海外ユニクロ事業:	1,089	58	6	+52	1,141	177	20	+157	1,246
中国	555	26	5	+21	576	-	-	-	-
香港	25	2	0	+2	27	100	-	-	-
台湾	65	0	0	0	65	-	-	-	-
韓国	179	3	1	+2	181	7	-	-	-
シンガポール	24	1	0	+1	25	-	-	-	-
マレーシア	41	2	0	+2	43	-	-	-	-
タイ	34	1	0	+1	35	40	-	-	-
フィリピン	40	5	0	+5	45	-	-	-	-
インドネシア	12	2	0	+2	14	-	-	-	-
オーストラリア	12	1	0	+1	13	-	-	-	-
米国	44	2	0	+2	46	10	-	-	-
カナダ	2	1	0	+1	3	-	-	-	-
英国	10	1	0	+1	11	-	-	-	-
フランス	19	3	0	+3	22	20	-	-	-
ロシア	20	5	0	+5	25	-	-	-	-
ドイツ	5	0	0	0	5	-	-	-	-
ベルギー	2	1	0	+1	3	-	-	-	-
スペイン	0	2	0	+2	2	-	-	-	-
ジーユー事業	372	13	2	+11	383	49	14	+35	407
グローバルブランド事業合計	1,002	15	8	+7	1,009	33	16	+17	1,019
セオリー事業※	538	11	4	+7	545	25	-	-	-
コントワー・デ・コトニエ事業※	333	2	3	▲1	332	6	-	-	-
プリンセス・タム・タム事業※	131	2	1	+1	132	2	-	-	-
総 合 計	3,294	94	22	+72	3,366	289	80	+209	3,503

注:ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店を含む

＜参考資料＞為替レート

連結決算取込 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)実績	103.0	114.4	131.2	15.3	9.2
2018年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)実績	112.1	131.9	147.8	16.9	9.9
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.1	120.7	139.7	16.1	9.7
2018年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	110.0	120.0	142.0	16.1	9.9

バランスシート適用 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 第1四半期末為替レート 実績	112.4	119.7	140.4	16.3	9.6
2018年8月期 第1四半期末為替レート 実績	112.1	132.8	150.3	16.9	10.4
2017年8月期 期末為替レート 実績	110.4	131.3	142.7	16.7	9.8
2018年8月期 期末為替レート 予想	110.4	131.3	142.7	16.7	9.8

設備投資・減価償却費(ファイナンスリースを含む)

単位: 億円

	設備投資						減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	ジーユー	グローバル ブランド	システム他	合計	
2017年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	22	45	13	5	61	148	85
2018年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	22	54	28	6	37	149	99
2017年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	66	243	76	29	181	597	396
2018年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	45	281	82	31	358	797	432